

1 部

学習サポート

2 / 1 ~ 3 / 22の各種申込締切一覧

各種の申込みや提出の締切で2 / 1 ~ 3 / 22のものを一覧にいたしました。通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着をお願いいたします。

■全学生に関連するもの

	提出物	締切日
2月科目修了試験	レポート・ 申込ハガキ	2月9日(木)
冬期スクーリングⅤ (3 / 2 ~ 3 / 18)	申込ハガキ (『With』80号)	2月9日(木)
春期スクーリングⅠ (3 / 24 ~ 4 / 1)	申込ハガキ	3月1日(木)
春期スクーリングⅡ (4 / 14 ~ 4 / 22)	申込ハガキ	3月22日(木)
オンデマンド・スクーリング13	申込メール	2月8日(水)正午
追加履修申込 (10月生のみ)	巻末申込書	2月28日(火)

	受付日	
レポート (レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。)	2月2日(木) 2月24日(金) 3月8日(木) 3月22日(木)	2月10日(金) 3月1日(木) 3月15日(木)

■社会福祉援助技術演習・実習関連

	締 切 日	備 考
★社会福祉援助技術演習A 2・3単位めレポート ◆社会福祉援助技術演習I 2単位めレポート (スクーリング事後レポート)	1～2月受講者 →2月24日(金)	『レポート課題集 2011(1・2年次)』 「★演習A」 p.190～194 「◆演習I」 p.125～131
★社会福祉援助技術演習B・◆演習II スクーリング受講申込み	3月15日(木)	本冊子 p.79～80 ※申込は、本冊子 巻末「演習申込 用紙」を使用し てください。

■精神保健福祉援助演習・実習関連

	締 切 日	備 考
精神保健福祉援助演習 スクーリング受講申込み	3月15日(木)	本冊子 p.81～82 ※申込は、本冊子 巻末「演習申込 用紙」を使用し てください。

■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

	締 切 日	備 考
教育実習・障害者(児)教育実習 誓約書・健康診断書(・個人調 査票のコピー)提出	4月実習開始者 →2月15日(水) 5月実習開始者 →3月15日(木)	※事前指導受講済 者のみ対象 ※3月事前指導受 講予定者は4月 初旬。

	締 切 日	備 考
教育実習の事前事後指導 事前指導スクーリング受講申込み ・抗体検査のコピー	3月受講希望者 →3月1日(木)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 203～206, 巻末
障害者教育実習の事前・事後指導 事前指導スクーリング受講免除 申請書類提出	3月受講免除希望者 →2月1日(水)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 283～288, 巻末
障害者教育実習の事前・事後指導 事前指導スクーリング受講申込み ・抗体検査のコピー	3月受講希望者 →3月1日(木)	

■その他

- 4月生年度内評価レポート提出期限 2月29日(水)
- 心理学研究法Ⅱ(3月スクーリング受講済者)1単位めレポート提出期限 3月14日(水)(3月卒業者は下記)
- オンデマンド・スクーリング受講者
 - ・オンデマンド12 試験レポート提出期限 2月29日(水)正午
 - ・オンデマンド13 試験レポート提出期限 3月21日(水)正午(3月卒業者は下記)
- 3月卒業希望者
 - ・再提出レポート提出期限 2月20日(月)
 - ・オンデマンド13 受講者の試験レポート提出期限 2月29日(水)正午
 - ・心理学研究法Ⅱ(3月スクーリング受講済者)1・2単位めレポート提出期限 3月7日(水)
- 卒業研究
 - ・2回目ガイダンス申込締切(福祉心理学科のみ) 2月3日(金)

「基礎演習」を終えて

教員 MESSAGE

講師 森 明人

私が、常々学生さんからのレポートに関する相談を受けて、思うことがあります。それは、教員がレポート課題に求めている意図や内容を適切に理解するというのを疎かにしてはいけないことです。先日基礎演習の休憩時間にレポートの書き方について個別に相談を受ける機会に恵まれました。私は、学生さんに実際のレポート課題を見せてもらい、まず、自分自身がその課題内容を理解するために10回は読み上げたことを思い出しました。とても基本的なことではありますが、レポート課題の作業への取り組みとは、まずは課題を適切に理解するという当たり前のことから始めなければならないのだと思います。

私自身も大学院時代を振り返れば、指導教授から、いくつもアドバイスを受けながら、それをメモにとり、何度も何度も指導内容が何を意味しているのかということについて考えたものです。そのような助言に、虚心坦懐に耳を傾け向き合ってみることに、そしてじっくりと何度もその助言を反芻してみました。自分自身、その時を振り返ってみると、最初はその助言の真意を良く理解していないことが多く、適切に自分の課題にできていたかどうかは甚だ疑問が残るところです。何度も同じ質問を繰り返したり、注意深さが足りなかったりと、思い出せば反省しきりです。教員には、それなりの教育的意図や求めがあり、それを理解する側が注意深く傾聴し、一言一句何を言っているのだらうと聞くことがやはり基本であり、レポート課題の取り組みにもそのような思考方法が求められるのではないのでしょうか。

ところで、対話（ダイアログ＝意味の共有、情報共有）が改めて注目されているということを昨今の様々な取り組みを通して知ることができま

す。町づくりタウン・カフェをはじめ、ソーシャルベンチャーが取り組んでいる「語り場」、社会人が無償で高校に出かけていき職業観等について語る機会・場所、様々な対話＝ダイアログの場所が生成されています。ソーシャルワークの場面なんかでも、ワーカーとクライアント間の関係性について、ナラティブ（物語、語り、ストーリー）からクライアントを理解し支援を展開しようとする社会構成主義や構築主義の立場が説得力を持ち始めています。これらに共通するのは、言葉や意味が現実を構成したり世界を形作るということです。このことがすぐにレポート課題の作成につながるとは思いませんが、少なくともレポート課題には教員との対話＝ダイアログの要素があり、教員からのいくつかの問いかけを想定しながら、「ダイアログ思考」でレポートに答えを与えていくという方法がありうるのだと思います。研究場面では、リサーチ・クエスチョン等と表現しますが、ただ平面的に課題に向かうのではなく、様々な角度からの「問いかけ」を想定して、その問いに答える形でレポートをつくりあげていくという方法についてはトライしてみる価値はあるのだらうと思います。やはり、私自身そのような行為を通して、指導教授からの助言をより良く理解し、新たに解釈することを通して、そのテーマに関する問いを考え、広げ、深めていったことを思い出しました。レポート作成にも同様のことが言えるのだと思います。特に通信教育での学習においては、時にスランプに陥り、近視眼的に物を見るような状況に陥ってしまい、物事の全体像が見えなくなっているなんてことも良くあることなのだと思います。そんな時は、レポートも遅々として進まないことと思います。それでも、誰かとレポート課題について、気軽に対話＝ダイアログできる環境があれば、その中で気分転換や多くのヒント、意欲を高めながら進めることも可能でしょうが、そのような条件に恵まれている方はごく稀かと思います。

さて、もう少し実践的な視点から学習を前進させる上で1つ気付いたことを申し上げておきたいと思います。それは、レポート課題の作成に美文

は必要ないということです。私が皆さんからレポートに関する話を伺っていて、ちょっと驚くのは、起承転結で書かなければと思っていらっしゃる方が意外にも多いということです。この是非について、ここで触れることはしませんが、少なくともレポート課題の内容に求められていることは、序論、本論、結論で十分に展開できるということです。さらに、誤解を恐れず言えば、レポート課題によっては、「問い」のポイントさえ押さえてしまえば、あとはその内容についてテキスト・文献等参考資料を丹念に調べて、内容を特定できたら、ナンバリング(①, ②, ③というように)しながら、「問い」に対して求められている内容を解説していくというレポートでも十分なものも散見されます。この点について、これ以上の詳細は割愛しますが、学習あるいは分析の基本に立ち返れば、大きな課題をいくつかの議論可能な小課題にわけた上で、検討を加えたり、説明を試みたりするというのが作法であったことを思い出せば、このことがいかに基本的な学習方法であるかは、ご理解いただけると思います。ただし、「言うは易し…」とのお指摘を受けるかもしれませんが。いろいろと述べさせていただきましたが学習を前進させることが何よりも大事です。あまり難しく考えず構えず、入りやすい箇所から目を通すなどしながら、まずはレポートに手をつけることで行動を起こしていただきたいというのが切なる願いであります。よく手を動かさない通学の学生にも申すのですが、まずは書き出してみることで、「あれ」と「これ」と「それ」を書くぐらいの気持ちで書き出すことが大事だと思います。

最後になりますが、一つひとつの課題に丁寧に取り組みながら、少しずつ成果を積み重ね成長している自分を信じ実感することは、いろんな目標をもちつつ学んでいる学生さんにとって共通に味わうことのできる通信教育の醍醐味なのではないかと思えます。皆さんが入学当初の目標に向かって一歩でも前進することを願ってやみません、一緒に頑張っていきましょう。

ストリートチルドレン芸術祭 チャリティカレンダー好評発売中！ 2012年1月～12月

●世界のストリートチルドレンを支援するカレンダー

今日世界では、住む家がなく路上生活を余儀なくされているストリートチルドレンと呼ばれる子どもたちが1億人いると言われていています。彼らはこうした飢餓の危機におびえるだけでなく、国や地域によっては誘拐され、子ども兵として戦場に送り込まれる、臓器を奪われる、性的な被害に遭うなど、過酷な状況におかれています。

「ストリートチルドレン芸術祭」は、有給スタッフ不在の無償ボランティア団体です。路上で暮らす子どもたちの描く絵を通じて、彼らの存在や思い・感性・可能性を一人でも多くの人々に実感してもらえたらという願いから、ストリートチルドレンに特化した芸術祭を開催する組織として、2005年に世界で初めて誕生しました (<http://children-smile.com/>)。

チャリティカレンダーは、メジャーリーガーの松井秀樹選手、女優の藤原紀香さんら、各界の著名人と静岡の中学生たちが、世界の路上生活の子どもたちのために掲載用の作品を無償で選出したのが始まりでした。ここで得られた収益は、ストリートチルドレン支援をしている現地NGOの協力のもと、子どもたちの自立支援や生活改善・学校へ行くための費用などに活用されています。

今年のカレンダーは、「東日本大震災で被災された方々の力に少しでもなりたい、頑張っている人をつなげたい」という考えをもとに、本学の国際ボランティアサークル「ストリートチルドレン芸術祭東北支部」を中心に作成されました。復興への努力をしている人たちがたくさんいます。ストリートチルドレンの子どもたちも精いっぱい前向きに生きています。国は違っても、今を頑張っているということに違いはありません。このカレンダーが「世界でがんばっている子どもたち」と「東北でがんばっている人たち」の、両者をつなぐ“かけはし”になってほしいという願いを込めました。

東北各地で頑張っている方々に、今までのカレンダーからストリートチルドレンが描いた絵を選考していただきました。選考者の方の現状や復興への思いも語っていただきました。今年で7年目となる壁掛けタイプのチャリティカレンダーにぜひご協力ください！

【価格】 1部 1,000円（税込）

【ご購入のお申込み】

以下1～5をご記入の上、ストリートチルドレン芸術祭事務局宛（order@children-smile.com）へメールにてお申し込みください。

※メールの件名に「2012年カレンダー希望」とご記入ください。

1. 氏名
2. 送付先（ご住所）
3. ご希望部数
4. 連絡先（電話番号）
5. このカレンダーをお知りになった経緯（例：知人の紹介，以前から購入，…など）

※カレンダー代金のお振り込み

カレンダー発送時に振込用紙を同封いたしますので、代金はカレンダー到着後、お振り込みいただきますようお願い致します。

※ご注文からお届けまで

申込時期によって、カレンダーのお届けまでに、7～10日ほどお時間を要する場合がございます。ご注文メールをお送りいただいてから、受付のメールを返信させていただくまでに3～4日かかる場合がございます。

【連絡先】

ストリートチルドレン芸術祭東北支部

〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1

東北福祉大学・生田目研究室内

Email：charity@tfu-mail.tfu.ac.jp

【ホームページ】

東京本部 <http://children-smile.com/>

東北支部 <http://wwwx.tfu.ac.jp/jhp/scc.html>

